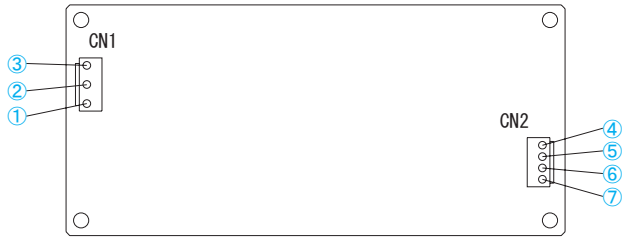


型名	回路方式	発振周波数 (kHz)	入力電流 (A)	突入電流 防止回路	基板/パターン面			直並列運転可否	
					材質	片面	両面	直列	並列
LB70A	シングルフォワード	200	1.5	サーミスタ	ガラスコンポジット	○		×	×

※ 入力電流値は、定格入力・定格負荷時の値を示します。

1	端子配列	LB-6
2	機能説明	LB-6
2.1	入力電圧範囲	LB-6
2.2	突入電流	LB-6
2.3	過電流保護	LB-6
2.4	出力電圧可変範囲	LB-6
3	実装・取付方法	LB-6
3.1	取付方法	LB-6
3.2	ディレーティング	LB-7
3.3	取付箇所	LB-7
4	ピーク電流	LB-7
5	接地	LB-7
6	その他	LB-7

## 1 端子配列



- ①AC (N) } 入力端子AC85~132V
- ②AC (L) } 1φ 47~440Hz
- ③FG
- ④V1出力端子
- ⑤GND端子
- ⑥GND端子
- ⑦V2出力端子

## 2 機能説明

### 2.1 入力電圧範囲

- 入力電圧範囲  
AC85~AC132Vでご使用になれます。
- 接続時の注意  
上記以外を入力電圧を印加した場合は、仕様を満足しない場合や電源を破壊することがありますので、ご注意ください。

### 2.2 突入電流

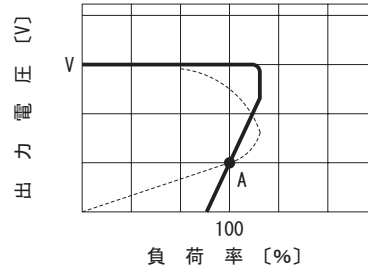
- 入力突入電流防止機能を内蔵しています。
- 入力にスイッチなどをご使用の場合は、入力突入電流に耐えるよう選定してください。
- 突入電流防止には、パワーサーミスタを使用しているため、通電後の入力再投入の際は、電源が充分冷えてから行ってください。

### 2.3 過電流保護

- 過電流動作  
過電流保護回路(ピーク電流の101%以上で動作)を内蔵しており、10秒未満の短絡・過電流に対して保護します。  
短絡・過電流状態を解除すれば、自動的に復帰します。
- 長時間の短絡・過電流  
10秒以上の過電流・短絡状態が続きますと、内部素子を破壊することがありますので、ご注意ください。

### ■フノ字特性の場合

過電流保護特性がフノ字特性(以下)をもつ機種は、ランプ、モーターなどの非線形負荷や定電流負荷を接続されますと、起動時に出力電圧が立上がらないことがありますのでご注意ください。



- : 電源負荷特性
- - - : 負荷側特性(ランプ、モーター、定電流負荷など)

注) ランプ、モーター、定電流負荷などの場合、A点で立上がり停止することがあります。

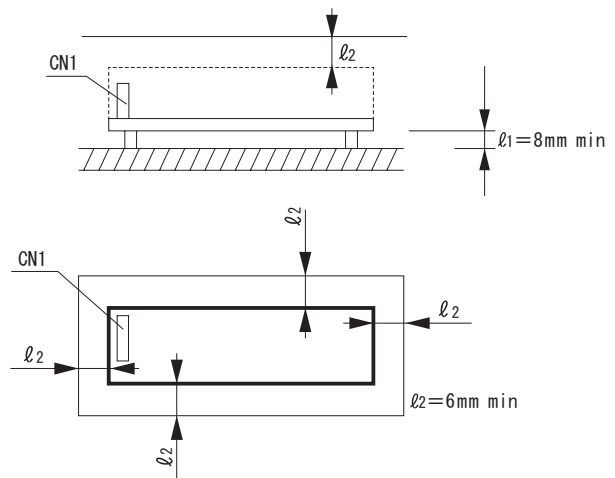
### 2.4 出力電圧可変範囲

- 出力電圧は固定されており、外部から出力電圧を可変することはできません。

## 3 実装・取付方法

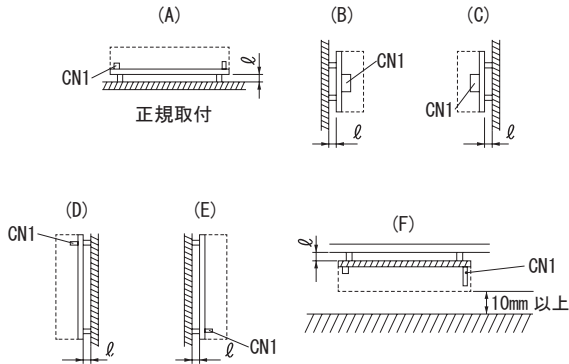
### 3.1 取付方法

- 複数の電源を並べて使用する場合は、各電源の周囲温度がデレレーティング表に示す温度範囲を越えないよう、電源相互の間隔を開けるなどして、十分な通風が得られるようにしてください。
- 金属シャーシの場合、部品リードと金属シャーシ間の絶縁のため、 $l_1$ 、 $l_2$ 寸法を守ってください。 $l_1$ 、 $l_2$ 寸法未滿となる場合は、電源と金属シャーシ間に絶縁紙を挿入してください。

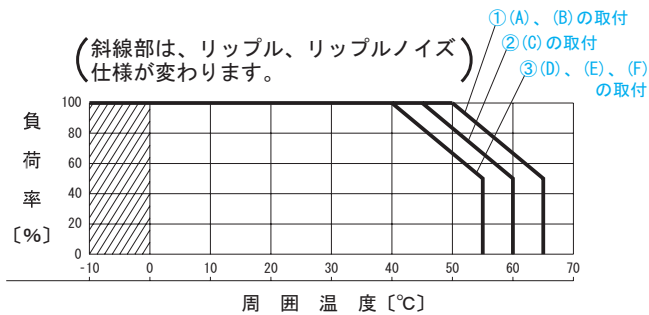


### 3.2 ディレーティング

- 取付方向によって使用できる周囲温度が異なります。以下ディレーティング表を参照してください。

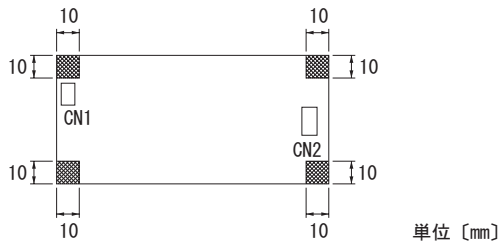


- 金属シャーシの場合、部品リードと金属シャーシ間の絶縁のため、 $\ell$ 部分を8mm以上確保してください。8mm未満となる場合は、電源と金属シャーシ間に絶縁紙を挿入してください。
- 表部品面側へ金属金具で取付けされる場合は実装部品との接触がないようご注意ください。



### 3.3 取付箇所

- 電源の取付ねじ径は、M3を使用してください。ハッチング範囲は、取付用金属部の許容範囲を示します。



## 4 ピーク電流

- ピーク電流は10秒間流すことができます。ただし、平均電流は定格電流以下としてください。10秒を越えるピーク負荷が続きますと内部素子を破壊することがありますのでご注意ください。

## 5 接地

- 電源取付の際は、入力FG端子または取付穴FGを必ず筐体の安全アースに接続してください。

## 6 その他

- 本製品は基板単体タイプの電源です。使用に際しては、電源内に導電物などの落下がないよう配慮願います。
- 軽負荷時、入力断後も数分間、電源内部に高い電圧が残ることがありますので、保守時などには注意願います。
- 出力端子に定格電圧以上の電圧が外部から印加されると、誤動作や故障の原因となりますのでお避けください。モーター負荷ご使用の場合など、可能性が避けられない場合は当社までお問い合わせください。